財団法人　愛知県埋蔵文化財センター

年報

平成
8年度

1997

㈶愛知県埋蔵文化財センター



朝日遺跡：人骨出土状況



八王子遺跡：井泉全景

序

平成８年度は、島根県・加茂岩倉遺跡の史上最多の銅鐸出土をはじめ、大阪府・池上曽根遺跡の巨大建物の柱が年輪年代測定で通説を覆す結果をもたらすなど、全国各地で注目されたできごとがたくさんありました。

当センターも設立されて12年目を迎え、県内21ヶ所で発掘調査が行われ、多くの成果があがっております。

ここ数年、中心事業であった東海北陸自動車道建設に伴う発掘調査は、本年度で一段落し、それに関連した調査報告書の刊行も始まりました。尾張西北部の歴史が、地域的な広がりをもって考古学の立場から解明されつつあります。

本年度もこれらの発掘調査の概要や調査研究、普及活動の記録を「年報　平成８年度」として公表することとなりました。本書が考古学の研究はもとより、埋蔵文化財の保護と活用の上でもお役に立つことができれば誠に幸いに存じます。

本書の刊行及び発掘調査にあたっては、理事・専門委員の諸先生方及び愛知県教育委員会のご指導を賜るとともに、建設省・日本道路公団・住宅都市整備公団・愛知県土木部・地元各市町村・そのほかの関係者の方々から多大なご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

平成９年３月

財団法人　愛知県埋蔵文化財センター

理事長　安部 功

例　言

1．本書は財団法人愛知県埋蔵文化財センターの平成８年度における事業の概要をまとめたものである。
2．発掘調査および整理報告書の作成は、建設省中部地方建局、日本道路公団名古屋建設局、住宅都市整備公団、愛知県土木部から、愛知県教育委員会を通じて委託を受け、本センターが実施した。
3．調査の概要は、各遺跡毎にまとめて記載した。
4．普及活動の概要は、本センターの事業のうち、研修会・埋蔵文化財展など発掘調査以外の事業について掲載した。
5．調査に当たっては、理事・専門委員の各氏および愛知県教育委員会文化財課、愛知県埋蔵文化財調査センターの指導・助言をいただいた。
6．本書の編集は服部俊之、大崎正敬、秋田幸純（調査研究員）が、古橋佳子、渡辺泰子（調査研究補助員）の協力を得て行った。また、関係各機関や各遺跡の発掘・整理にかかわる作業員の方々に多大な援助を賜った。
7．各遺跡における調査区の座標は、国土座標第Ⅶ座標系に準拠する。
8．各調査区の名称は、Ａ区、Ｂ区・・・のようにローマ数字で表し、調査した西暦年度の下２桁を調査区名の前に冠した。したがって平成８年度の調査区は96〇区となる。

財団法人　愛知県埋蔵文化財センターの組織

役　員

理事長

安部　　功

常務理事

樋口　康則

理　事

安井　俊夫	愛知県教育委員会教育長
井関弘太郎	名古屋大学名誉教授
伊藤　秋男	南山大学教授
大参　義一	愛知学院大学教授 （平成８年９月13日ご逝去）
坪井　清足	財団法人大阪府文化財 調査研究センター理事長
楢崎　彰一	愛知県陶磁資料館総長 （名古屋大学名誉教授）
間瀬　泰男	都市教育長協議会会長 （半田市教育長）
高田　鉞郎	町村教育長協議会会長 （木曽川町教育長）
山本　邦夫	愛知県土木部長
小田　哲二	愛知県教育委員会生涯学習部長
武田　　晋	愛知県清洲貝殻山貝塚資料館館長 （清洲町長）
福田　清彦	愛知県陶磁資料館館長

監　事

鍵谷　正衛	（非常勤）
大見　賢治	愛知県出納事務局次長

専門委員

考古学	楢崎彰一	愛知県陶磁資料館総長 （名古屋大学名誉教授）
文献史学	福岡猛志	日本福祉大学教授
地理学	海津正倫	名古屋大学教授
建築史学	小寺武久	中部大学教授
考古学・動植物学	渡辺　誠	名古屋大学教授
形質人類学	池田次郎	京都大学名誉教授
保存科学	沢田正昭	奈良国立文化財研究所 埋蔵文化財センター 研究指導部長
岩石学	諏訪兼位	日本福祉大学教授 （名古屋大学名誉教授）
木材組織学	木方洋二	名古屋大学名誉教授

職　員

事務局長 （兼管理課長）	杉浦　彰治
管理課	
課長補佐	市山　　泰
主　　査	鹿取　健司
専門員	伊藤　　弘
主　　事	渡邉　高夫　大井　　治 長瀬　尚哉　坂　美貴子
調査課	
課　　長	中川　真文
課長補佐 （兼主査）	高橋　信明　福岡　晃彦
主　　査	坂倉　澄夫　小泉　　渡 増澤　　徹　黒田　哲生
主　　任	赤塚　次郎　石黒　立人
調査研究員 （主任）	小澤　一弘
調査研究員	藤井　孝之　松田　　訓 伊藤　秀紀　宮腰　健司 浅井　厚視　大崎　正敬 中野　良法　後藤　英史 西原　正佳　北村　和宏 山本　寿徳　酒井　俊彦 池本　正明　秋田　幸純 服部　俊之　小川　芳範 鈴木　正貴　樋上　　昇 飴谷　　一　加藤　博紀 伊藤太佳彦　堀木真美子 永井　宏幸　鬼頭　　剛 田中　伸明　武部　真木 蔭山　誠一　原田　　幹 早野　浩二　水谷　　豊（期限付）

（平成９年２月１日現在）

目　　次

Ⅰ．平成８年度事業概要 …… 1

Ⅱ．遺跡調査の概要 …… 5
調査の理由と工程 …… 6
遺跡の位置 …… 8
各遺跡の調査概要
高針原１号窯跡 …… 10
鴻ノ巣古窯跡 …… 14
細口下１号窯跡 …… 16
上品野遺跡 …… 18
ＮＡ335号古窯跡群 …… 20
大脇城跡 …… 22
第二東海自動車道試掘調査 …… 28
三ツ井遺跡 …… 30
馬引横手遺跡 …… 44
毛受遺跡 …… 48
八王子遺跡 …… 52
苅安賀遺跡 …… 64
志賀公園遺跡 …… 66
下津北山遺跡 …… 70
吉田城遺跡 …… 74
森岡古窯跡群 …… 76
大毛池田遺跡 …… 78
一色青海遺跡 …… 80
権現山遺跡 …… 84
清洲城下町遺跡 …… 86
朝日遺跡 …… 88

Ⅲ．調査研究 …… 97
粗製剥片石器研究ノート（Ⅰ）　原田　幹 …… 98
愛知県における古代・中世の鉄器生産　その１　鈴木正貴・蔭山誠一 …… 108
尾張平野における中世井戸の構造とその変遷に関する覚書　北村和宏 …… 123
古代人は何を燃やしたのか－微粒炭よりわかる燃焼の記録－　鬼頭　剛・尾崎和美 …… 133
濃尾平野における歴史時代の地震痕　その５　服部俊之 …… 144

Ⅳ．埋蔵文化財センターの活動
埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会 …… 156
発掘調査技術等研修会（Ⅰ）・（Ⅱ） …… 157
現地説明会 …… 157
資料の貸出・提供 …… 158
検討会 …… 160

Ⅴ．付篇（受贈図書一覧） …… 162